



論文誌編集委員会

ヒューマンインタフェース学会

論文誌編集委員会委員長（担当理事） 木村 朝子

ヒューマンインタフェース学会では、年に4回論文誌を発刊しています。論文誌編集委員会では、この論文誌に投稿される論文の査読および編集を行っています。

■ 昨年度から HI 学会論文誌が J-STAGE でフリーアクセスに！

ヒューマンインタフェース学会論文誌の新たな試みとして、昨年度（No.19, Vol.4）より、最新掲載論文すべてが J-STAGE にてフリー閲覧可能となりました。論文のサイテーション率が論文誌の重要な評価指標の一つとなる中で、J-STAGE での論文のフリーアクセス化によって、ヒューマンインタフェース学会論文誌のアクセシビリティが向上し、読者数が増えることは、論文の著者にとっても大きなメリットになると考えています。J-STAGE への移行は、前委員長の石井裕剛先生のご尽力で実現しました。今後、No.19, Vol.3 以前の論文に関しても、順次 J-STAGE へ移行していく予定ですので、是非ご活用ください。

J-STAGE のヒューマンインタフェース学会論文誌ページ

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/his/-char/ja>

■ HI 学会論文誌の査読基準

HI 学会論文誌委員会では、「論文査読のガイドライン」に以下の方針・注意点を提示しています（<https://www.his.gr.jp/upload/paper/reviewer-guideline20121128.pdf>）。

- (1) 良い点の積極的評価を
- (2) 採録に必要な最低限の条件を
- (3) 記載された内容で評価を
- (4) 改訂すれば採録できないか検討
- (5) 本質的な問題があれば明確に指摘を
- (6) 新規性なしの根拠を明確に
- (7) 研究に新規性がないのと関連研究が述べられていないのは別
- (8) 新規性が判断できない2つの場合
- (9) 有用性は将来も含めて評価を
- (10) 知ることの有用性も積極的に評価
- (11) 補助資料なしでも理解できるように

学術論文ですから「信頼性」は必ず必要ですが、「新規性」と「有用性」については減点主義でなく「加点主義」を旨とし、100点満点でなくても60点以上であれば採録を前向きに検討し、将来のヒューマンインタフェース研究の発展に資する可能性を秘めた論文を出来るだけ取りこぼさないという方針で査読をお願いしています。

■ 今後の特集号の予定

今後の論文誌の特集号は、
2018年10月31日（水）締切の「安全管理支援技術」特集号（Vol.21, No.2 掲載予定）、
2019年1月31日（木）締切の「[いい加減]なインタフェース2」特集号（Vol.21, No.3 掲載予定）と続きます。

また、その次の Vol.21, No.4 では、「ユーザーインタフェース／ユーザーエクスペリエンスのデザイン（UI/UX のデザイン）」特集を組む予定となっています。

特集号は、一般論文比べて査読のスケジュールが早くなります。皆様のご投稿をお待ちしております！

■ シンポジウム推薦論文

秋のシンポジウムで発表された研究の中から優秀な論文を選び、シンポジウム実行委員会（プログラム委員）からのアドバイスとともに論文誌に推薦するシステムです。シンポジウムでの発表が、論文誌につながる推薦論文システムとなっています。投稿していただいた論文は、一般論文同様査読を行いますが、二人の査読者の内一人は上記プログラム委員が担当します。是非ご活用ください。